

令和3年3月22日

文部科学省初等中等教育局
教科書課長 神山 弘 殿

新しい歴史教科書をつくる会東京支部
支部長 池田元彦

中学校歴史教科書より「従軍慰安婦」の記述削除を要求する

「新しい歴史教科書をつくる会」（以下「つくる会」という。）の運動は、中学校歴史教科書の「従軍慰安婦」記述を放置すれば、国が亡びるという危機感から始まったといっても過言ではありません。私たち東京支部としてもこの問題を原点として教科書改善運動に取り組んできました。特に、事実無根の「従軍慰安婦」の記述削除は主要なテーマでした。而して「つくる会」の懸命の尽力もあって、平成21年には全教科書から「従軍慰安婦」の記述が消えるという大きな成果を上げました。

ところが、令和元年度の教科書検定において山川出版社の中学校歴史教科書に「従軍慰安婦」の記述が復活するという驚くべき事態が発生しました。「従軍慰安婦」については、言葉そのものが造語であり、「強制連行」も「性奴隷」も全くなかったというのが政府見解でもあります。更には「従軍慰安婦」を長年に亘り報道し続けてきた朝日新聞も誤報であったことを認めています。このように、既に決着のついた問題なのです。

この教科書を文部科学省が検定合格させたことについて、私たちは心の底から強い怒りを表明します。令和元年度の教科書検定においても、文部科学省はこのほか多数の不正検定を行っていますが、「従軍慰安婦」記述復活の容認はその最たるものだと断じざるをえません。

日本の歴史伝統文化を育み、日本の誇りと国益を守るのが文部科学省の責任なのに、真逆の行政施策を推進する理由を糺したく、日本国の国益と誇りの観点での「従軍慰安婦」再記述を許容し、新しい歴史教科書（自由社版）を、一発不合格にするための、いい加減な検定理由をつけての数合わせで不合格にした事情理由を、公式に説明願いたい。文書回答を要求します。

勝手ながら、本年4月10日迄に文書で回答を頂きたい。

私たちは、この文部科学省の不正検定を糾弾し徹底的に闘うことをここに宣言し、貴局教科書課長名での文書回答を、要求する次第です。

以 上